

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870200217		
法人名	特定非営利活動法人 つくし		
事業所名	グループホーム つくし 2階		
所在地	福井県敦賀市天筒町8-55		
自己評価作成日	令和4年10月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 4年 11月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になられる前の個々の生活を可能な限りつくしにて再現し、認知症により出来なくなった事を陰ながら職員が支え、方々が穏やかな日々を過ごして頂き、残された人生を満喫していただける「終の棲家」となるべく、喜怒哀楽に満ちた環境の提供が出来る事業所となる様、力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

つくし階と同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々理念を意識するため寄り添い日誌に「今日の目標」として掲げ、家庭的な環境や潜在能力を発揮できるよう支援している。	つくし1階と同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状コロナ禍で、地域の行事やお祭り等も中止で地域参加は難しかったが、地区の廃品回収には積極的に参加させて頂いている。外出支援としてつつじ祭りの食事会や市内の食事会に出掛け入居者の笑顔が見られた。又、ボランティアの方の一日体験もあり、他の地域への興味や交流となった。	つくし1階と同じ	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	理事長が福井県認知症の人と家族の会に入会し、敦賀でのつどい、各市町村での講演会・研修会で事業所で得た実践経験を基に認知症の理解促進・支援方法について生かしている。近隣の方々との交流は色々な対応はしているが苦慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、区長、組長、民生委員、市長寿健康課職員、御家族、理事長、管理者、介護支援専門員を交えて、入居者の体調報告、行事、その他事項、連絡事項を説明し、日々の活動に生かせるよう助言等を頂いている。	つくし1階と同じ	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	対応に苦慮する事例や、案件が発生した場合等その都度連絡をさせて頂き意見具申等頂き事業所としての運営・対応に生かしていける関係を築いている。	つくし1階と同じ	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠はせず、深夜間は防犯の為、施錠している。全体ミーティング時、2ヶ月に1回身体拘束委員会を開き、勉強会及び反省会として意見交換し、それを2ヶ月に1回の運営推進委員会で取り上げている。本年は、不適切なケアの指摘を行政から受けその都度緊急ミーティングの開催や勉強会の開催を行い入居者の気持ちに寄り添ったケアに取り組んでいる。	つくし1階と同じ	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修、新人教育等において、ホーム作成の資料により勉強会を開催し、職員の意識向上に繋げている。本年は、外部講師の虐待研修やアンケートを実施した。また、今回2階職員の不適切なケアの指摘を漁政から受ける事となり、改善策等を作成し現在改善に向け行動をしている所である。また、2ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し、無意識の虐待ケアにつながる状況が発生していないか、していれば「なぜそうなったのか」を中心に、経過と結果を検証し無意識の虐待も防止できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体ミーティングを利用し、ホーム内での勉強会として行っている。又、毎年社外研修での資料を参考にして今後活用できる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や介護保険改正等については、事業所の運営規定・重要事項説明書および入居契約書等については、管理者が十分説明を行い、疑問等発生時にはその都度、御入居者、御家族に対し、口頭説明や書面での周知・承認を頂きとの都度確認し対応を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や担当者会議、来所時等において、御入居者や御家族のご意見、要望を聞き、フロア会議や全体ミーティングで職員一同で話し合いをし介護計画書に反映したり・事業所内の設備・運営の改善に努めている。	つくし1階と同じ	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体ミーティングで都度運営状況等について改善をお願いしたり、上席者会議、職員会議を新設し意見交換をしている。また、2階フロアミーティングでは、上席者に対し傾聴をまず実施し、担当職員が話しやすい環境づくりをする様指示しているが、意見後の対応に対し、躊躇するところがある。意見や提案を話し合い風通しの良い職場となるようにするにはどうしたらよいか思案中である。	つくし1階と同じ	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の資質を見極め、得意分野を増やすべく色々な担当業務を経験させている。また、やりがい等を向上させるべく職員連携加算3およびベースアップ加算取得に向け関係帳票を変更中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表自ら1日1回、現場に入り、職員個々の介護能力や関わりに対しての状態を把握している。個々の問題には、申し送りノートで対処している。又、年間研修(外部)はコロナ禍において、ズーム等で行っている。内部研修は月1回の全体ミーティング後に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所として、福井県グループホーム協会・敦賀市介護事業所連合会に入会し管理者、職員は開催する研修会や他事業所職員との交流の機会を作っている。又、他事業所との交流を兼ね職員を他事業所にて研修させ事業所のサービス向上になる状況があれば反映させている。 本年度は、コロナ禍において、滞っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前事前調査や契約時に本人や家族から困り事や不安の聞き取りを行いすぐにアセスメントシートを作成し全職員と共有を行えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査や契約時入居前の生活用品購入時に現状に置いての困り事や不安を聞き取りホームで可能な対応の提供を行ったり相談に乗っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、医療や介護サービスの利用があれば聞き取り情報提供を受け必要なサービスがあれば調整を行うこととしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の要介護度の上昇や、事故に伴う身体状況の低下等で介護業務が増え、自立支援を行える方々が減り、介護に関する時間が増えてしまい暮らしを共にする関係性が薄れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム入居に於いて事業所の方針や、運営方法について十分な説明をし、気兼ねなくホームに來所して頂ける関係をまず築き、家庭の延長線上の様に來所し、居室や、リビングにて、穏やかな時間を送って頂いている。職員は、その状況をそっと見守、りご家族と顔を会わせ近状報告等をする事で、共に本人を支える関係を築き上げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族やご本人から、馴染みの方々へホーム入居したことが伝わりホームに来ていただいた時は、玄関でマスクを着用して頂き面会して頂けるように支援している(コロナの為)。外出については、現在はコロナの為極力控えさせて頂いている。	つくし1階と同じ	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り環境作りや場面作りを行い入居者同士が関われるよう努めている。 毎日の日課季節行事の提供で入居者全員が参加できるようまた、関りができるよう対応に心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退去後他事業所へ移動があれば情報提供を行ったり死亡された場合も家族がホームに来所されいっても気兼ねなく相談できるよう声掛けを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との関係の中で本人からの思いや希望を度々聞き取ったり困難な場合は本人の思いを代弁できるよう寄り添いミーティングや申し送りノートを活用し検討や周知をしている。	つくし1階と同じ	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査による本人・家族からの聞き取り他事業所や病院からの情報提供の他、入居後も会話の中から情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人・家族の望む生活を送れるように支援しながら心身や有する力等の変化の観察を行い記録に残したりミーティングや申し送りで職員一人一人が把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や機会があるたびに家族からの聞き取りや日々の生活の中で本人の意向の把握をし毎月のモニタリングは担当職員が行うなどそれぞれの意見やアイデアを計画書に反映し作成することに努めている。	つくし1階と同じ	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録に詳しく記入することで様子や気づきを職員間で情報共有しケアの工夫につなげ月1回のカンファレンスにて検討を行い計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の希望を踏まえ、管理者・ケアマネ・介護員で話し合いながらニーズにそえるサービスを考えながら支援できる方法を話し合い対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍も沈静化してきたが、今暫く様子を見極めて従来取り組んできた各種行事等に積極的に参加し地域との連携を図るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は緊急時付き添っている。医師との会話によりご本人の体調や訴えを伝え適切な医療が受けられるよう努力している。受診した際は必ず通院報告書を作成し家族も連絡して家族との共有を図っている。	つくし1階と同じ	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職については日常の体温測定、血圧測定、身体看護(傷・皮膚等の塗り薬の塗布)等を対応をしている。介護職との情報共有を図る実施した内容で重要な件については、申し送りに記載し、情報を共有している。常に相談できる関係作りに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室や主治医・看護師と良好な関係作りを密にしている。退院時、そして退院後にも本人の状況を見極め情報収集し介護支援専門員と共に適切なカンファレンスを行い、また病院主催の研修会にも参加し関係を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合、事業所としての対応方針を説明させて頂き、入居者様の身体状況が重度化した場合や、終末期対応状態になる前に対応方法や今後の本人の介護、看護のあり方をご家族様と事前に相談し、訪問看護事業所と連携を図っている。	つくし1階と同じ	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者急変時や事故発生した場合は緊急ミーティングを行い、不具合のあった所を指摘指導し改善を図っている。対策を討議し、議事録として保管している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策(火災・原子力災害・自然災害)では実施前に研修時間を設け職員に教育を実施、訓練についても入居者・職員全員が参加して実施している。訓練当日前に近隣の方々には訓練を実施することをお知らせにて配布してお伝えさせて頂いている。	つくし1階と同じ	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所方針や、理事長の創設した思い(本人本位)を都度伝えている。職員目線での言葉掛けが多く見受けられる為、改善対応中である。	つくし1階と同じ	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけに注意し、本人の希望を聞き対応可能な件については対応している。職員が都度寄り添い趣味や得意な事を察知し対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の事情による決まり事で日中業務が進む傾向にあり、日々の変化が味わえる環境化ではない状況である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服で迷ってしまう方には一緒に対応している。日々の職員の関わりの中、身だしなみや、おしゃれ感覚が乏しい職員が対応する事が多い上席者等が最終着せ替えをしたり選ぶことが多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はそれぞれの能力に合わせてテーブル拭き等職員が声かけながら対応して頂いている。業者から食材購入した物については、現状職員のみが調理している。食事の後片付けは入居者と共に行っている。職員も入居者と同じものを食べている。	つくし1階と同じ	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の既往症により水分調整を行う事もある。医師からの指示に基づき記録しながら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には口腔体操を行い口腔機能低下を防止したり食後の歯磨きや口腔洗浄実施し口の中は清潔に保っている。訪問歯科と連携し個別の指示も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間については、オムツ使用の入居者が数名いる。自立支援をなるべくする様指示をしているが、本人の能力を把握し切れていない事と業務をこなす対応が垣間見れる。	つくし1階と同じ	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量も少なく、体を動かす頻度も低下してきている現状がある。現在下剤により排泄コントロールしている方が多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望やそのその日の体調を見計らって入浴が楽しいと感じて頂く工夫をして入浴いただいている。入浴時には事故防止に万全を期している。	つくし1階と同じ	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡時間を提供している。 午睡することを生活習慣とする対応をしている。但し薬による睡眠を極力させない様注意を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個人ファイル化し対応している。使用は主治医の指示に従うことを厳守させ、残薬については管理している。服薬マニュアルを整備し万全を期している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の有する生活の質を把握し生活歴を参考ししながら何を望んでいるか見極め楽しみのある生活の場を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は限られたが原子力災害訓練や土砂災害訓練の際に周辺のドライブ・レストランでの外食や地域との交流も実施している。	つくし1階と同じ	つくし1階と同じ



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナの影響もあり、お金を持たれることに拘られる方には、ご家族および職員から説明対応をし立て替え払いであることを伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたり、手紙が来た時には理解できるよう支援している。年賀ハガキも一文でも書けるよう手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の人が見ている視界について不安や混乱を与えないよう工夫して居心地のよい共同空間づくりに努めている。 蛍光灯に紙覆い器具・光を柔らかくした電球を使用している。コロナ禍で外出も限られた。リビングや玄関に季節の草花を飾り季節観を感じて頂いている。	つくし1階と同じ	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ禍で屋内での生活を余儀なくされた。また、リビングでのテーブルの配置については個々の生活の質に応じて穏やかに過ごせる居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	残り少ない人生が穏やかで孤独な思いをさせないよう色々工夫している。テレビやカレンダー馴染みの家具や調度品を置いて居心地の良い家族環境づくりに努めている。又重度化のため居室内の事故防止を図るため環境変化をさせている。	つくし1階と同じ	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーを基本とし事故防止に万全を期している。個室については個々が有する生活の質に応じて安心して暮らせる居室環境づくりに努めている。		